

令和４年度第１回徳島県南部地域政策総合会議 会議録

1 開催日時

令和４年８月３０日（火）午後２時から午後４時５分

2 会場

徳島県南部総合県民局 阿南庁舎 大会議室

※WEB会議システム併用

3 出席者

（１）政策総合会議委員

① 地域住民代表委員 １４名（５名欠席）

井上委員 大地委員 兼松委員 岸委員 小林委員（WEB） 酒井委員 坂本委員 谷澤委員
靄委員（WEB） 橋本委員 濱崎委員 林委員 平井委員（WEB） 町田委員

② 県委員 １名

坂東南部総合県民局長

③ 計画推進評価部会 専門委員 １名

石田部会長

（２）管内市町長 ５名

表原阿南市長 坂口那賀町長 枅富牟岐町長 影治美波町長 三浦海陽町長

4 会議次第

（１）開会

（２）議事

- ・ 令和３年度徳島県南部圏域振興計画の実施状況について
- ・ 令和３年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価について

（３）意見交換

（４）閉会

5 配付資料

- ・ 徳島県南部地域政策総合会議設置要綱
- ・ 徳島県南部地域政策総合会議委員名簿
- ・ 令和４年度第１回徳島県南部地域政策総合会議配席図
- ・ 資料１ 令和３年度南部圏域課題解決プランの実施結果及び評価（概要）
- ・ 資料２ 令和３年度南部圏域課題解決プランの実施結果及び評価
- ・ 資料３ 令和４年度南部地域政策総合会議 計画推進評価部会 報告
- ・ 資料４ 「徳島県南部圏域振興計画」及び「課題解決プラン評価」の概要
- ・ 参考資料 徳島県南部圏域振興計画（令和４年３月改訂版）

6 議事概要

[司会]

ただ今から、令和4年度第1回徳島県南部地域政策総合会議を開会いたします。

本日は、14名の地域住民代表委員の皆様及び管内市町の市長、町長様に御出席いただいております。

なお、飯泉知事は参加を予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染症対応のため、酒池副知事が代理で参加しております。

[酒池副知事]

徳島県副知事の酒池でございます。本日は、南部地域政策総合会議を開催しましたところ、御多忙のところ御出席を賜り、ありがとうございます。先ほど事務局から説明がございましたとおり、本日は、当初、飯泉知事が出席を予定しておりましたが、急遽、新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開催することとなり、私が代理で出席をさせていただきます。

今日は、南部圏域の第一線で御活躍をされている皆様方から、忌憚ない御意見・御提言を頂けるものと大変楽しみにしておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

[司会]

今後の議事進行は、会議設置要綱第5条第2項の規定により、坂東南部総合県民局長が行います。

[局長]

南部総合県民局長の坂東でございます。

本日は、委員の皆様方におかれましては、お忙しいところ、御出席をいただき、誠にありがとうございます。南部総合県民局におきましては、徳島県南部圏域振興計画及び令和4年度までの4年間の計画期間とした南部圏域課題解決プランに基づき、委員の皆様から頂きました御意見を踏まえ、地域の皆様と連携・協働しながら、各種の取組みを推進しているところでございます。

本日は、令和3年度の「徳島県南部圏域振興計画」の実施状況について事務局から説明させていただき、7月21日に開催した計画推進評価部会において、令和3年度南部圏域課題解決プランの実施結果の評価をいただいておりますので、その結果を石田計画推進評価部会長から御報告をいただきます。その後、委員の皆様から徳島県南部圏域振興計画及び南部圏域の振興に向けた御意見・御提言を頂きたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

また、その後、本日御出席の管内の各首長様からも御発言を頂き、最後に副知事から全体を通じて、御発言を頂きます。

それでは、議事に入ります。議題1の令和3年度徳島県南部圏域振興計画の実施状況についてでございます。事務局から説明をお願いします。

[事務局]

(資料1、2により説明)

[局長]

次に、議題2の令和3年度南部圏域課題解決プラン実施結果の評価につきまして、石田部会長から御説明をお願いします。

[石田部会長]

(資料3により説明)

[局長]

ありがとうございました。ただ今御説明のありました、「南部圏域振興計画の実施状況」、「課題解決プランの評価」について、御意見・御質問ございますでしょうか。

(御意見・御質問なし)

[局長]

それでは、令和3年度南部圏域課題解決プランの評価について、部会の評価のとおりとすることで、御承認いただいてよろしいでしょうか。

(異議なし)

[局長]

ありがとうございます。

石田部会長については、所用のためここで退席されます。石田先生、ありがとうございました。

(部会長退席)

[局長]

ここからは、委員の皆様から、圏域の振興全般に対する御意見・御提言をお聞きしたいと思います。

まず、会場の皆様からお伺いし、続いてWEBで御参加の皆様からお伺いできればと存じます。全員に御発言いただきたいので、申し訳ございませんが、お1人あたり3分程度でお願いいたします。

では、A委員から、順番にお聞きして参りたいと思いますので、よろしくお願いします。

[A委員]

よろしくお願いします。私は観光業で普段働いているんですけれども、コロナで先ほど、評価のところでもあったんですけれども、去年はやっぱり少なかったんですが、今年は個人客とか旅行客の方が、増えてきたので、大分復活してきているのではないかなと思います。これからですね、南部圏域でも、サービス業、特に宿泊だったりとか、体験事業っていうのが、今どんどん増えてきているので、すごくニーズもありますので、広がりがあると思います。

そこで、私は、子育て世代になるんですけれども、今幼児保育の方も、だんだんと体制が整ってきていて、各市町村で、平日の預かりとかも増えてきているんですけども、特に休日ですね、やっぱりサービス業になると、特に宿泊体験事業者になると、土日が仕事のメインになります。そういった時に、特に私達は、住者になるので、頼れる人がいない。幼児保育について、土日どこか子どもを預けることができるところがもう少し増えてきたら、もっと仕事がしやすい環境ができるんじゃないかなと思います。女性も今かなり働いているので、そこに対するサポートというのができてくるんじゃないかなというのがあります。子育てがしやすい環境がもう少し広がっていったらいいかなと思います。

あと、私達は川遊びがメインになってくるんですけれども、今防災教育の方もかなり進んでいて、

講座とかも増えていっているんですけれども、特にライフジャケットですね、皆さん川遊びのときに着用してくれるようになって、広がりを見せています。ただ、大人の方が、お子様に比べて、少しライフジャケットの使い方が間違っていたりとか、そういうところもあって、やっぱりちょっと認識が甘くなる傾向があるので、お子様の防災教育、小中学校でやってはいるんですけれども、あとは、家族向けという形で、大人の人も学べるような講座であったり、自然の家でやっている体験の中で、一緒に安全に遊べる環境を作っていくというところで、そういったプログラムができていったらいいのかなと思っています。

〔B委員〕

日頃は、水産業の振興に御協力いただきましてありがとうございます。令和3年度南部圏域課題解決プラン実施結果及び評価案の63ページにも記載のとおり、アオリイカ産卵礁造成等にはかなり御協力いただいているところです。アオリイカの産卵礁造成については、卵を産み付ける「柴」を海に放り込むということを行っております。放り込んだ後、正直、特にその後の評価というのは行われておりません。今後、できれば、一定期間の評価に御協力いただける機関があれば助かると思っております。以上です。

〔C委員〕

阿南商工会議所のCでございます。本日の一連の議題と少しずれるかも知れませんが、商工業者の意見というところでお話させていただいたと思います。今年は5年に1度の徳島県東部都市計画の見直しの年になっております。商工会議所の中で社会インフラ委員会というのがありまして、その中で、昨年から都市計画の見直しについて、どういったことで、県の方をお願いするかということで、8月8日に会議がございまして、そのときに発表させていただいたのを要約して、お話をさせていただいたかと考えております。

まず、阿南市中心部である富岡地区の人口減少の一つの原因と考えられる、都市計画の線引きに関してでございます。阿南市における近年の新規就業者数は数百人から千人規模で増加しておりますが、人口減少に歯止めがかかっておりません。中でも、阿南市中心部の人口減少は顕著で、阿南市全域の人口減少度合いを上回っており、阿南市における住宅地取得希望が最も高い富岡小学校エリア周辺の都市計画区域の拡大が必要と考えております。当該エリアの阿南駅周辺から国道55号線までのエリアでは、大型ショッピングセンターが3カ所、図書館、市民会館、ひまわり会館など、生活インフラが最も整備されており、伝統ある富岡小学校も立地しております。富岡小学校周辺では、移住したいところに住居を構えることができず、新しく店舗を出店する場所や敷地がない状況が10年以上続き、その結果として、周辺人口が減少しております。阿南市が目標としている持続可能なコンパクトシティが実現できるような富岡領家日開野地区になることを願っております。

二つ目といたしましては、市街化調整区域の見直しとして、都市計画法において、市街化区域に指定することで、甲種農地の除外を提案したいと思います。現在整備が進んでいる都市計画道路、領家日開野線は、一部は供用が開始されていますが、適正な街の整備を目的とした都市計画道路周辺が、市街化調整区域となっており、住宅店舗などの新設を阻害しております。都市づくりの理念である従来の拡散型から転換し、地方創生方針であるまち・ひと・仕事のバランスがとれた阿南市の近未来の構想する、また、長年の都市施策においても、市街化調整区域人口が市街化区域人口を上回っている現状を踏まえて、コンパクトな都市づくりを目指すためにも官民の既存インフラが集中する国道55号線や当該都市計画道路周辺の都市計画について見直すべきと考えております。ぜひとも、関係行政

庁や各担当部局の皆様の御理解をいただくようお願いいたします。以上でございます。

〔D委員〕

徳島県阿南市で花火屋をしております、Dと申します。花火はコロナ化で非常に影響を受けた業種でして、初年度のコロナ禍、売り上げが夏場が90%減というところでした。、非常に厳しい中で、今年はいよいよ各場所で従来の花火大会、また、新しい形での花火大会が戻ってきてつつあります。皆様の御協力ありがとうございます。

花火を通じてですね、取り組んだこと、この解決プランの中で、コロナ禍で実施ができなかったという御意見がありましたが、おそらくコロナが原因ではなくて、コロナ禍で実施ができていない、もっと本質的なところがあるのではないかなと思っています。まあ花火につきましても、不特定多数の方が訪れることが問題であって、限定された方であれば、そこにきて、感染症対策ができる、例えば、有料の花火大会を実施するとか、弊社が取り組んだことでいいますと、阿南光高校と一緒にあって、3年生のために2年生が打ち上げる花火というのを実施しました。形としましては、クラウドファンディングを活用して、地域の中小企業、レストラン営業者と一緒に、それを資本として花火を打ち上げるという形で行い、半年かけて、2年生と花火の選曲、デザイン、プログラムまでを行いました。250万円の目標で、300万円という費用を集めることができまして、3分間の音楽の花火を提供したというところで、非常にやりがいがありましたし、実施し終わった後の生徒の反応、特に2年生の反応を見ると、圧倒的なその音の体験がそこで提供できたのではないかなと思っています。コロナ禍というのは非常にやりにくい部分があったりとか、人が動くことによるリスクはありますが、それをうまく利用するというか、今しかできないこともあるのではないかなと考えておまして、その中でも子供達にフューチャーをして、南部で圧倒的なコト、体験というものを提供できるよう、花火の何かアイデアを皆様から頂いて、それを実施していきたいと思っています。花火と組み合わせで、SUPであったり、キャンプ、様々なものがより楽しめるコンテンツに変わってと思っています。どうぞ花火を活用して、より豊かな地域の人が喜ぶ場所へと変えていけたらと思っていますので、どうぞよろしくお願いします。

〔E委員〕

自主防のEと申します。南部地域では、皆さんご存じのように、津波は、5分から30分の間に到達するようになっております。私達は、去年大学生と、今年も神戸大学の学生と75才以上の独居老人のところを一軒一軒回りました。約200軒ぐらい回ったんですかね。そうすると、「去年まで、一昨年までは、避難できたけど、今年はもう山によろ、階段をよう登れん、今まで逃げよったけど、よう逃げきれん、もうあきらめて家から出ない」という人が多数でできました。それで、私達は、自主防だけではなく、福祉とか、色々な団体と一緒に、避難困難者をどうするかというので、この間、県の人と、内閣府の避難困難者担当者の人と話し合いましたけど、どういう方法があるかなといった時に、高知県の黒潮町では、玄関まで来てくれたら、助けに行く方法はあるっていつてますけど、私達はもうそういう取組みは昔からやっていました。それから、助ける人が周りにいない、ほとんど年寄りの方で、どうして助けるんだということで、今神戸大学の人と研究しております。、こういうことが早く解決したらいいと思っています。以上です。

〔F委員〕

よろしくお願いします。南部地域の振興ということで、私は南部の自然環境のことがとても大

事だなどと思いますので、それに関して、御意見させていただきます。今、阿南高専の方では、阿南市環境保全課と一緒に、生物多様性を保全・活用することに取り組んでいます。生物多様性というのは、世界レベルで非常に危機的な課題であって、今、実際身近な自然が、豊かだと思っている自然が、本当はすごく劣化が進んでいるというのが実態です。よく、皆さん、周りを見ていただくとですね、また、遊休農地ができたりとか、海亀が来ないとか実は身近なところで、生き物はどんどん減っている、これは、これから私達が暮らしていく上で、とても重大な課題になってくると考えています。南部地域の振興を考えた場合でも生態系の豊かさをいかに守っていくかということを考えていくことが、非常に重要だと思います。既にある豊かな自然を若い世代までつないでいく。今、生態系保全の十年が叫ばれておりまして、環境省も今までは、自然保護エリアというのを定めて守るという姿勢だったんですが、それだけではなく、人と自然の共生ゾーンをOECMという言葉を使い、国土の30%をOECMとして、守っていこうと、国も一生懸命取り組んでおります。ぜひ南部圏域で、市町村をまたいで、自然はそういった行政管轄では分けることはできないと思うので、連携して守っていければなあと思います。

それと、もう一つは自然エネルギーの導入についてなんですけれども、豊かな自然があるからこそ、自然エネルギーの導入の可能性があるという御意見もあります。自然エネルギーは、これからどうしても導入しなければいけないものだと思いますけれども、やはりこの豊かな自然を守ることと、自然エネルギーの導入が両立できるかということを考えていくと、あらかじめ選択的に計画を作成することがとても大事ではないかなと思います。導入する場所の選定ですとか、地域としての導入の目的や理念ですとか、地域が主体的に自然エネルギーを導入する判断をできるというふうな、そういった事前の計画づくりができればいいなと思います。以上です。

〔G委員〕

私は、福岡県で生まれて大阪市に移住して、今は徳島的那賀町で楽しく暮らしております。二人の子供がおりまして、0才と2才です。おそらく子育てをしているから、私がこういう場に出てきてはどうかということで、声をかけてもらったのかなと思いますので、子育てに関することを申し上げます。子供を小児科に連れていくことが毎回とても大変で、これは先日、那賀町の女性議会でも意見として申し上げまして、御回答いただいたんですけど、色々なところと言っていくというのもありかなと思ひまして、重複しますけど、申し上げます。まず那賀町に小児科はありません。鼻水を取ってくれる耳鼻科もありません。産婦人科もありません。すべて町外、毎回、車を一人で運転して、1時間かけて行くんですけども、それが非常に大変で、慣れてしまえばいいかもしれませんが、例えば、もう1人子供がほしいけれども、大変だからもう今以上増やすのをやめようと思ってしまう。移住してこようかな、子育ての医療費が免除になるし、という移住希望者にとっては、医療費免除になっても、様々な病院が町内にないので、なんて大変なんだろうと、都会でしか暮らしたことがない人からすると、車で1時間かけて病院に行くことはもう論外の話になってしまいます。地域枠の医療従事者の拡充であったりとか、定期検診などは日は決まっていますので、町内に来ていただいて、出張していただくなどのへき地医療の体制の充実をしていただければいいなと思っております。

もう一つ、私は移住コーディネーターの資格を取らせていただきまして、那賀町には3名の移住コーディネーターがおりますが、移住コーディネーターは特に、移住希望者と会話するタイミングというものが、行政側からは提供されることは今までありませんでした。私自身が取ったんですけど、どのように機能すればいいのかなとちょっと思っていたところでした。なので今後私自身も考えていきたいと思ひますし、行政の方からつないでいただければ、私も貢献して、そこに対して予算がついた

り、そういうことを考えていただけたら、また、移住に対して協力できるのかなと思います。以上です。

[H委員]

去年だったかなと思いますけれども、中山の道路がちょっと危険なので、減速表示か何かをしていただきたいということでお願いしてあったのが、できてまして、本当にありがとうございます。そして、新しくできました新築大橋のところがすごくカーブミラーが見にくくて、色々ありまして、警察の方に相談させていただいたんですが、それも直していただいて、すごく入りやすくなったように思います。ありがとうございました。

それでは、私は林業を主にやっておりますので、災害と環境について、お願いしたいというふうなことがございまして、今日やって参りました。安全安心、そして、強靱な国土、色々な面からあると思うんですけれども、私は林業の方からこういうのはどうでしょうか、ということをお話したいと思います。先ほどF委員さんの方から生物多様性ということでお話しがありましたが、私の場合、やはり生物多様性、それから環境、災害ということにつきまして、色々と40年前から考えて、山づくりをしております。そういう中で、やはり生きとし生けるものが、よりよい環境で生きていけたらなあと思っております。気候変動、皆伐、獣害、それから、作業道のちょっと壊れているところもたくさんありまして、そういった諸々の条件が重なって災害につながっているように思います。私は、山づくり、特に作業道づくりにおいては、壊れにくく、半永久的に使えるような道をつくっていただきたいと以前からお願いをしておるところでございまして、最近は効率重視ってところが目に入っております。近くでも広い作業道、林道、それから、10トン車が入るような、林道じゃなくて、作業専用の林道と、それと作業道っていうふうに分類されているのを見ました。それで、やはり今の道は崩れる可能性は少なくない、多くなってきていると思っております。やはり広い道をつけると、通っちゃいけないところを通っているケースが多いんですね。やはりそういうところは、安全安心のためにも検討してほしいと思っております。それと、先ほど、生物多様性というお話がありましたけれども、やはりG7においてそれが検討されて、国家戦略としてそういうことをやる、陸地でも30%、海洋でも30%ということを保護していきたい、守っていきたいということが打ち出されております。徳島県も手を挙げておりますので、この辺のところを考えていただいて、言葉では簡単なんですけど、豊かな森、持続可能な森づくりというのは、ものすごく難しいんです。なので、言葉だけでは終わらないように、色々な方の知恵を集結して、本当に豊かな森づくりをやることによって、私は多くの人の木育になるのではないかなと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

[I委員]

私からは、「きゅうりタウン構想」の御報告をさせていただきます。今年のきゅうりの収穫は、ほとんど終わりました。今、溶液栽培で、5人程、栽培しておりますけれども、この真夏の土用の時に、私もハウスありますけども、大変過酷でございまして。本当に大変でございまして、頑張っております。今年の収量は、1020トンぐらいでございました。そして、売り上げが3億弱ということでございました。高齢で離農する農家もございまして、過酷ですので、病気でリタイアする方もできました。そういうことで、一次産業のきゅうりのハウスは、暑い中では大変でございまして、頑張っております。そして、また、26名が就農ということですが、本当に過酷な農業でございまして。今年もまた、この秋から、10月、11月から栽培にはかかるんですが、京都から来ておりました方が17アール、県の支援をいただきまして、ハウスが完成して、また栽培しま

す。そして、また牟岐の若手の御夫婦の方も就農ということでございます、そして、美波町の日和佐で、本当にひさしぶりに日和佐の若手の御夫婦が、この10月から塾生の7期生として、1年間勉強して、就農するような計画を立てております。そういうことで、ボツボツではございますけれども、前へ進んでいってるかなあという感じがしております。また、体験ツアーでは、色々と電話もかかってくるんですけれども、このコロナというふうなことで、全員が受け入れることがなかなかできません。早くコロナが収まっていadakimashite、また、いろいろな方々の御要望に応えられるよう、頑張っていく所存でございます。これからもよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

〔J 委員〕

阿南市文化会館夢ホールを拠点に、文化芸術事業の活動を行っています。文化芸術事業を通じた豊かな町づくりというのをテーマに活動していますNPO法人です。コロナが始まったばかりの2020年は、会館が使えない5ヶ月があり、去年は座席を半分を使えないような形で活動し、今年は最大列は使わないですけども、ほぼ90%、80%という形で活動を続けています。ただ除菌というのを常に行ってまして、スタッフも習慣化してきて慣れてきましたし、お客さん達への協力のお願ひも随分スムーズになってきました。催しものをするときに、チケットとか、現金とかの扱いがとても神経質になるんですけれども、最近も例えばペイペイとか、現金を使わない方法をできませんか、という意見をお客さんからいただきました。それはとても初期投資が大変で、年間の手数料も大変なので、なかなか私達には手のでない話ではあるのですが、その中で一つ、イベントチケットに特化したチケットというアプリがあります。これは無料ですが、スマホ同士で決済するので、会館受付にWi-Fiが必須です。一日も早く公共施設で、Wi-Fiが使えるようになることを願っています。

今年8月には、私達は初めてだったんですけれども、音楽の日という夢ホール全てを使った催し物を開催しました。夢は、世界のリゾート地でおこなわれているような音楽フェスティバルなんですけれども、なかなかそれも力がなくて、今まで私達の事業は、出演者、主催者、観客という3つの人達が力を合わせて、芸術を豊かにしましょうねという活動でしたが、そこに地域の皆さんのことも加えて、四拍子でなんとか頑張っていきましょうということで行っています。今回は、鳴門市出身で、ユーチューブで今20万人の登録者を持っている石井琢磨君というピアニストを芸術監督に迎えて行いました。彼を迎えたので、ピアノリサイタルであるとか、彼の企画でストリートピアノ、石井さんと子供達の連弾という企画もあり、子供達への音楽会やワークショップなどを行いました。さらに、今までしたことがなかったんですけれども、キッチンカーに来ていただいたりとか、藍の葉を使ったお菓子、限定スイーツを市の和菓子屋さんで作っていただいて、お土産として提供したりもしました。先ほど申し上げました石井琢磨さんが20万人のユーチューバーですので、全国的にファンがいて、ほぼ3分の1は県外の方でした。北海道から九州までのお客さんが来られて、駐車場、ここの夢ホール駐車場にも見たことないようなナンバープレートの車がいくつも並んでいました。全国から来られるということも分かっていましたので、できるだけ阿南市のことを知ってもらおうと事前にインスタで動画をいろいろとあげてみました。町の飲食店であるとか、歴史散歩、富岡町の歴史散歩というのも、市の職員さんに案内してもらいながら、町を紹介したりしました。あと阿南駅から夢ホールまで歩いてくる道筋も動画で挙げてみたりもしました。「それはとても助かりました。」というお客さんからの意見もありました。ただ行った時期がインターハイの時期だったので、宿を予約するのがとても大変だったらしく、阿南市では予約できなくて、県外で宿をとってようやくたどり着いたということもありますので、これは時期を選ぶのはとても大変だなと、重要だなと感じました。

それともう一つ、私達が行っている事業で、去年から小・中・高校生のためのインリーチ事業とい

うのを始めました。これは、小・中・高生達をホールに招待して、演奏を聞いていただくという事業です。子供達は、テレビとかで、色々な音楽には触れているとは思いますが、私達が得意としているクラシック音楽の生演奏を聞く、それもホールでお客さんとして聞くという機会は少ないと思いますので、そういう機会を作ろうと思って行いました。今年は4組の演奏家、先ほどお話しした石井琢磨さん等、4組の演奏家と5つの小学校、1つの高校の約1200名の子供達がホールにやって来ることになっています。学校にできるだけ負担をかけないようにしていますので、バスをチャーターして、来ていただくのですが、これも県の助成金とか、阿南市の助成金とかをいただいて、なんとか活動することができそうです。色々ありがとうございます。ただインリーチという言葉はまだ一般的でないことは確かです。インリーチの反対のアウトリーチという言葉は、多少お聞きになったことがあるかとは思いますが、ホールから出かけて行って、何か体験していただく、私達は2006年からアウトリーチ出前授業というのを行ってきました。その頃はまだアウトリーチという言葉が一般的ではなかったのですが、今はもうあちこちで行われているかと思います。先ほどお話しした小・中・高生のためのインリーチ事業もいつか一般的になって、あたり前の事業として、行っていただくように進んでいけばいいかなと思いますし、このインリーチという言葉に対しての理解と御協力をお願いできたらなと思っております。以上です。

〔K委員〕

よろしくお願いします。先日ネットニュースで、国土交通省徳島河川国道事務所の発表で、徳島県南部と高知県東部をつなぐ計画の高規格道路が両県またぐところで、設計が全て固まって、用地買収の段階へと移行したという、うれしいニュースを見ました。道がつながれば、必然と人が集まってくるなと思ひまして、わくわくしております。この県の振興計画を見てましたら、目次のところでも、世界を魅了する観光地域づくりは、交通体系の構築とセットになっているので、合わせてうれしく思いました。例でいえば、数年前に黒河のバイパスも完成していただいて、そのあたりは阿瀬比から加茂のところ、四国八十八カ所の遍路道であって、巡礼者の方もたくさんいらっしゃるの、四国八十八カ所の世界遺産への運動にもつながっているのかなと思ひました。確か15年ぐらい前なんですけど、阿瀬比加茂癒やしの道のクリーンアップ作戦と名を打って、官と民がボランティアで、大規模な清掃活動をしたことがありました。やはり、官と民が一緒になって、道路の維持管理を進めるのが大事かなと思ひますのでお願いいたします。

特に地域の特色というのは、そこで住んでいる人でないと、分からない点もたくさんあって、それをもう一度洗い出して、住民と行政とで、新たにその町にしかない県南の観光を相談しながら、作っていくのが必要だなと思ひます。例えば、隣の勝浦町ですね、四国最大数の恐竜化石ということで、阿波かつうら恐竜フェスティバルを開催しています。7月16日から8月21日まで、夏休みの期間、PRが上手といいますか、住民の方がほとんど取り組んでいるのは、町おこしの見本になるなと思ひました。よく似たもので、私の地区にも、若杉山遺跡、それと、無堤防地区の堤防も仕上げていただいて、洪水の心配がなくなった加茂町の土手ですが、工事の際に、朱が出て参りまして、加茂宮ノ前遺跡ということで、朱の生産では国内最大っていうようないいお話もいただいているので、この分でもいろいろ新しい観光の開拓を探りいれていくようなのを住民と、民と官が一緒になってできる機会をいただけたらなと思ひました。それが、観光へのつながる一歩かなと思ひます。

今ですね、観光といえば、道の駅のように思ひます。くるくるなると、もう行列で行列でっていうことで、私も商工会女性部で、朝一番に行ったらやっと入れました。その前は、道の駅いたのにもできたすぐに商工会女性部で行ったんですが、女性というのは買い物好きなので、県南にも那賀川、

日和佐、驚敷と非常に工夫された道の駅があるんですけども、高速道路ができれば、鳴門とか上板を通り越して、県南に来るような道の駅というのを今から準備していくような必要があるように思います。

それと、コロナに関してなんですけども、ワクチンは5才から打てるんですけども、小さい子供さんはあまり打っている子供さんが少なくて、2回かかっている方もおいでます。そのお姉ちゃんとか、お母さんですが、濃厚接触者なので出かけられない方もたくさん私の周りにはおります。このワクチンを打つと、コロナになりにくいですよというようなPRが必要なのかなと思いました。マイナスじゃなくて、いい点もありますよというのをもっともっとPRをして、例えばマイナンバーカードをすると特典をいただけるように、市とか町とかで、小さい子供さんでもワクチンを打ったら、何か特典があるようになっていうのも工夫の一つではないかと思っています。

それと、評価部会でも話題になったんですけども、最近地球環境が変わってきて、経済を追求しながらも環境に配慮することが大事だっていうことが話題になりました。本当に地球温暖化防止、節電ってというのは、今もう切り離せないことと思います。今は、値上げでも高いお金出したら届くんですけど、遠い将来ですね、地球が変わって、お金を出してもガソリンが買えない時代が来るような気がします。今から、習慣というか、PRっていうのが必要なように思います。

また、その災害につながるんですが、私自衛隊友の会っていうのに入っております、那賀川町にできた陸上自衛隊がちょうど10年目になりまして、最初自衛隊の皆さんは那賀川を利用して訓練をしてたんですけど、最近は訓練するところがなくて、北海道の方まで行ったり、遠いところまで自衛隊の皆さん行っているんです。最初那賀川でしてたのにどうしてですかとこう聞きましたら、色々な行事予定の問題であったり、色々な問題を抱えているということで、災害のときには一番に頼らなければいけないので、そういう問題をクリアするような手助けを住民からできたらいいなとも思いました。以上です。

[局長]

ありがとうございました。それでは、WEBで御参加の皆さん、お願いいたします。

[L委員]

私からは移住のことをお話ししたいと思います。委員の皆さんのお話をお聞きしております、人口減、それから、移住のことで大きな問題が出てきてるんだなということは、非常によく理解しています。

一つは、移住と空き家の助成金の見直しを是非していただきたいと思っています。全国どこでもだいたい助成金が横並びになってきています。各市町において、おそらく違った部分での助成の仕方が出てきてるんじゃないかと思っています。県南部においては、移住の推進が早くから行われていたということがあって、空き家の掘り起こしが結構できているんですよね。それで、「空き家たくさんあるでえ」って、おっしゃる方多くいらっしゃるんですけども、すぐに住めるっていう空き家がなくて、県南部は、特に湿気多いですから、あのどんどん建物の痛みが激しくなってきました、空き家改修の助成金をいくら出しても、もう追い付かないんじゃないかっていう感じになってきています。ですので、前から言うておりますように、早く空き地問題、それから、新築にける助成金を出していただけたらと思っています。それから、登記ですね、登記にかかるお金がもったいないからってということで、相続登記できていないところがあるので、そういったところへの助成金出すようになったらいいんじゃないかなとは思っています。

次に、県南部の今後の移住推進計画なんですけれども、南部に県民局があるんで、南部の市町がもとと言っていますように、移住の方では、結構一丸となって、連携をとって、いろんなことができるようになってきたんですね。その効果が大きいのはやはり南部総合県民局がリードして引っ張ってってくれるからじゃないかなとは思っていますので、引き続き頑張っていきたいと思っています。

それから、先ほど移住コーディネーターのことをおっしゃっていましたが、やっぱり行政と民間との連携がなかなかできてなくて、やりたいっていった人の意見をうんと聞いてあげるとか、移住はやっぱり行政が主導をとってやっていかないと、今後もううまく進んでいかないと考えています。

最後に言いますけれども、津田のところインターチェンジができて、徳島南部自動車道ですかね、昨日も大阪から移住者の方が美波町に見えられたんですね。なんと2時間半ぐらいで行くんですよ。昔から私思っているんですけど、近畿は、もう私達にとってみたら、すぐそばなんです。それをもっともっとアピールしないとだめです。すぐに来れるんですよ、神戸なんか。もう通勤できるんちがうんかなと思うぐらいですよ。それで、2拠点の方がすごく増えてきました。そういったこともよく踏まえてこれから今後取り組んでいっていただきたいと思っています。私は南部のことを近畿の海外とよんでいます。東南アジアだと思って来てくださいねって言ってるんですよ。今、外国に行きにくいんだったら、すぐそばにある、もう東南アジアみたいな南部に来ていただけたらと思っていますので、またそういったことのアピールもしていっていただけたらと思っています。よろしくお願いします。以上です。

[M委員]

よろしくお願いします。前回、テクとくっていう徳島県健康アプリの活用法というようなお話させてもらったんですけども、この前、保健師さんからチラシを預かりまして、市町村対抗戦ってということで、10月頃にですね、このアプリを活用して、ウォーキングしませんかっていう。こういった楽しいイベントも、ぜひ委員の皆様、これをまた機会に参加して、みんなで楽しくウォーキング、運動していただければと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、本題のお話をさせていただきます。私は、普段から、総合型クラブで、介護予防であるとか、地域の方に運動指導をさせていただいているんですけども、この数年、運動の指導内容っていうのがコロッと変わりました。リモートを使った運動内容っていうのが、変化してきているんですけども、今後は、そういったリモートを使った介護予防がとても大事になってくるんじゃないかなって考えてます。それで、3年後、2025年には、団塊の世代が後期高齢者になったり、10年後には団塊ジュニアも60歳以上になります。ですので、今後はそういった健康っていうのをもっともっと真剣に考えていかないといけないのかなってということで、総合型クラブは、実際数年前からリモートのことをいろいろ進めてきているんですけど、現在徳島県でもやっぱり3クラブしかまだ進んでないのが現状です。でも、実際はクラブに限らずに、例えばネット環境があって、パソコンがあって、ズームでつながることができて、大きなスクリーンがあって、数名集まるスペースがあったら、クラブじゃなくても、実際どこのスペースでも、指導員がいなくても、リモート指導って、運動ってできるんですね。もう一つ、壁になるのが、技術差の問題なんです。やっぱりやったことない人っていうのは、受信するっていうにも大きなハードルがあるので、そういう人達をもっともっと技術面の構築っていうのを進めないと、リモートとか、こういったものは進んでいかないのかなと思います。これから、人生100年時代っていうのを見据えていると思うんですね。医療や行政もそういうのを見据えて何でもデジタルでできるっていうのを進めていくためには、こういう運動も含めて、機械に慣れるっていう技術面をもっと進めていくっていうことが大事なのかなと思います。健

康になっていただいて、１００才近くになっても、健康な高齢者は、どんどん社会参加していくべきだと思います。労働力がだんだんなくなっていくというのが日本の衰退していく大きな要因なので、元気な方は現役で、自分も含めてそう考えてるんですけど、私は元は大阪なので、私の母は大阪で勤めていて、７５才になった時に、会社の方針で辞めてくださいって言われたんです。まだまだ元気なのに、働けるのにつてちょっとくやしがっていました。私のクラブでは、８１才の方も講師をしたり、会員さんで８０歳前の方でも介護のサポートしてるってことで、海陽町に来たら、やっぱり８０歳ぐらいでも元気な人働いてるんだな、大阪とは違って、そういう働いてる高齢者が多いんだなというのを目にしたので、これからは日本全体、特に徳島はどこも高齢化が進んでいるので、そういう環境整備が大事なんじゃないかなと思います。

プラスその労働力の確保っていう面ではですね、先程から子育て世代の方の話がでてるんですけど、そういった子供を産んですぐ働きにいきたいっていう若い人もいらっしゃると思うんで、そういう方のためにも手厚い支援がとっても大事だなと思うんです。それで、その保育料とか一時預かりのことなんですけど、実際、私は保育の期間は終わってるんですけど、保育料については、手厚いので知られてる明石市でも２人目からは保育料が無料とかなんです。海陽町でも手厚いんですけど、３名以上とかなんですね。今って出生率が平均１．３人です。なので、１人目から無理なのかなとかちょっと思ったりします。

あと一時預かりっていうのも海陽町にあるんですけど、時給８５０円とかで働いても８００円とか取られると、働きに行ってももったいないよなって、働きにいかないお母さんが実際いらっしゃるんですよね。それで、１０月からも最低賃金がまた上がりますよね。徳島は、最低賃金８６０円近くなるんですけど、クラブに勤めているスタッフも喜んでるんですけど、喜べない一面があって、というのは、扶養家族で扶養控除の対象になっているので、例えば時給が上がると、働く時間が減るだけで実際は家庭に入る収入というのは変わらないんですよ。なので、この１０３万円、１３０万の壁ってのがいつになったら上がるのかなっていうのが、私達からしたら大きなネックになっています。まあここで話してもどこまで変わるのか分からないんですけども、是非こういったところもメスを入れていって、もっとほんとに働きやすい環境づくりっていうのを進めていって欲しいと思います。以上です。

〔Ｎ委員〕

今日はですね、標高１３０１ｍのファガスの森から参加をさせていただいております。ちょうど館内が電波が悪くて、外で今で行っております。温度が２１℃で、涼しいです。

では、お話をさせていただきたいと思います。国道１９３号線の名古ノ瀬集落付近になりますが、上那賀から木沢に入ってから国道なんですけれども、今センターラインがほとんど消えてしまっているんですね。今、道路工事で大型ダンプがたくさん通行しております。非常に私自身も危険を感じますので、できればセンターラインをはっきり新しくしていただきたいなと思っております。それに関連して、その場所あたりで、樹木が道路に張り出してきて、大きなダンプですと、屋根がこする関係でしょうかね、どうしてもセンターラインを越えて走ってくる。そういう状態が見られます。まあお写真も撮っておけばよかったんですけどもできれば早く樹木の撤去ですね、重ねてお願いをいたしたいと思います。時間短いんですけども、それだけなんですけど、ちょっと時間ありますから、１０秒ぐらい、これね、この風景をですね、皆さんに見ていただきたいなと思うんです。今こんなとこなんです。以上でございます。

[局長]

ありがとうございました。ここで、本日欠席されている委員から書面で御意見を頂いておりますので、事務局から御紹介いたします。

[事務局]

それでは、O委員、P委員、Q委員からの御意見を御紹介いたします。

まず、O委員の御意見でございます。1点目としまして、南海トラフ巨大地震をはじめ、多様化する自然災害時発生時における、つながり、支え合う場でもある避難所の快適化が近年の他地域の事例から、体育館や公民館大ホールにおいて、冷房設備、暖房設備の充実が急ぎニーズとして求められます。合わせて、電源の確保も災害時避難所運営生活上、必要不可欠です。避難所である県施設の設備状況及び計画プランを教えてください。2点目として、防災教育、地域を担う人材育成のプログラムはもちろんの事、もっと身近な防災講座ができるファシリテーターや講師の育成も必要である。各災害カテゴリーに人材バンクを団体や所属に関係なく、南部防災プロフェッショナルチームを兼人材バンク内に作り、小さな自主防から学校防災までを企画・訓練できる形を初で作ってほしいです。

3点目としまして、次世代地域交通ネットワークタスクフォース南部版について、専門家のみならず、地域住民も入れたもっと一歩進んだ議論で県南交通を一緒に考えましょう。ぜひよろしくお願い致します。以上です。

次にP委員からの御意見でございます。1点目としまして、旧海部病院の活用について、当分の間はウイズコロナで病院活用はまだまだと思われませんが、活用についての話し合い計画は立てておいた方が得策と考えます。2点目として、県立海部病院に常勤で若い先生方、それも家族単位で来ています。医師達の住居を高台移転してはいかがでしょうか。3点目としまして、牟岐町天神前の傾斜地工事が止まっていますが、工事の道を利用して避難道路を付け足していただければ、高台避難場所になると思います。検討をお願いします。以上です。

最後にQ委員からの御意見でございます。地域公共交通の充実について、人口減少による利用者の減少や、車社会化により公共交通を取り巻く環境は厳しくなっていると感じています。一方で、高齢化等により車を運転できない人の移動手段の確保が求められています。鉄道等の既存の公共交通の使い勝手を向上させることはもちろんですが、自宅から駅までの移動等、公共交通機関の空白を埋める活動をより推進していただきたいです。現状、高齢者に向けたタクシー助成等を中心に空白を埋めている自治体も多いと思いますが、人口減少が進む今、20年、30年先も同じ方法が続けることは難しいと思います。阿南市でモデル事業として行っていた「阿南市 ご近所ドライブパートナー事業」等各自治体の新たな事例やその課題の共有をどんどんしていただきたいです。また、事例の共有だけではなく、実際にどうすれば事業が実装されるかを考えて、県として支援することが必要なのではないのでしょうか。以上でございます。

[局長]

はい、ありがとうございました。それでは、これまで皆様方から頂いた御意見・御提言に各部からいくつか回答をさせていただきたいと思います。

〔地域創生防災部〕

地域創生防災部から御回答いたします。移住・定住、観光、防災等を所管しております。御意見、御提言を何点か頂きましたので、全てに対してではございませんが、この場でお答えさせていただきます。

G委員さんの方からですね。移住コーディネーターについて、御意見等頂きました。移住コーディネーターですけれども、本県の移住定住を推進するとともに、移住者に徳島での暮らしに馴染んでいただくためには、受入環境・体制が非常に重要であると考えておるということで、平成27年度に移住者と地域住民とのつなぎ役として、とくしま移住コーディネーター制度を創設いたしまして、移住支援に必要なスキルと知識を持つ方を御本人の申請により、認定させていただいているというところでございます。現在県全体で98名の方がとくしま移住コーディネーターとして、移住の悩みや不安に寄り添った御相談、それから、移住者が地域に溶け込むための生活面のサポート、更には、SNSを活用した情報発信と様々な活動をしていただいているところでございます。G委員におかれましても、南部総合県民局の移住交流イベントに参画をしていただいたり、徳島県那賀町チャンネルへの出演、御自身の体験を通じた移住の心得の啓発や移住者目線での地域の魅力発信に精力的に取り組んでいただいているということで、本当にありがとうございます。この徳島移住コーディネーターは、移住支援に高い関心と熱意を持って取り組まれる方を認定させていただいているというところでございます。そうした中ですね、なかなか地元実際に来られる方と接点がないというようなお話を頂きました。そうしたことで、やはり今回こうしたコーディネーターになっていただいた方が、なって良かったとやりがいを感じていただけるだけよう、市町とも連携をして、活躍の場がある、環境づくりを考えていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

続きまして、L委員さんの方から、何点か御提言等を頂いたところでございます。まず、移住の空き家等助成金の見直しということで、お話をいただきました。L委員さんがお話をされてましたように、南部地域で、いわゆる使える空き家というのが減ってきているというところでございます。そうした中でですね、新型コロナや特別テレワークの普及によりまして、場所や時間的な制約が低減され、都会暮らしから田舎暮らしを考える選択肢が生まれるなど、新たな地域を活躍の場とする機運も高まっているというところでございます。L委員もおっしゃっていましたが、全国でも移住者向けの支援が様々行われているというところでございますけれども、南部圏域におきましても、市町により空き家に関する支援をしていただいております、当該市町への定住等を目的とした空き家の利用を希望する方に情報提供を行う空き家バンク、また、空き家の改修への支援等を行っていただいております。また、県におきましても、みんなでリスタート！徳島移住促進支援金による子育て世帯や県外の大学等に通う学生向けの移住支援や東京23区に在住、または、通勤されている方が徳島で就業する場合に引っ越し経費を支援する、徳島わくわく移住・創業パッケージ支援事業などを行っております。L委員のおっしゃるように、今空き家が非常に重要なところになっているというところで、そうした住宅に関して、移住される方にどうやって住んでいただくかということにつきましては、これからは様々なサポートを各市町とともに緊密に連携しまして、課題等洗い出しながら、考えていきたいというところでございます。そうして来てくださる方の負担軽減につながるサポート、そうしたものはどういったものがあるか、本県の移住の優位性、そうしたことを御理解いただけるように、現状制度の周知、情報発信を行うとともに、考えていきたいと思っております。

それから、神戸・大阪、いわゆる関西圏が非常に近いというようなお話でございます。これにつきましては、やはり関西に非常に近いというようなことで、観光で訪れてみた、漠然と移住を考えている検討段階の人も試しに訪れてみた、そうした方々が、徳島ならではの地域資源の魅力を感じていた

だき、移住につながっていくと考えてございます。そこで、徳島県といたしましても、これまでも南部圏域内の市町で構成する四国の右下若者創生協議会の事業を通じまして、関係者の皆様とともに移住相談会、大規模フェアなどに参加するとともに、東京・徳島と同様にワンストップの移住相談窓口である移住コンシェルジュを大阪にも配置して移住者誘致の体制整備を図っているところでございます。さらに、アフターコロナを見据えて、オンラインも積極的に活用して、関西の方々にはしっかりと発信をしながら、四国の右下を移住先に選んでいただけるように、より効果的にPRを行って参りたいと考えてございます。以上でございます。

〔保健福祉環境部〕

保健福祉環境部でございます。ただ今多くのご意見を頂き、誠にありがとうございます。時間の都合上、私からは、二点お伝えさせていただきたいと思っております。

まず、E委員さんから、独居老人の方々の避難問題をご自身の取組みという形で、お話ししていただきました。御承知のとおり、平成26年、災害対策基本法の一部改正がございまして、災害時に自ら避難することが困難な高齢者の方、また、障がい者その他の方々、いわゆる避難行動要支援者、こうした方々の名簿を作成することが義務づけられました。これにつきましては、南部圏域すべての市町で作成済みになっておるところでございます。さらに、昨年5月の法律改正におきまして、この名簿登載された要支援者お一人お一人についての個別避難計画の作成、これが市町村の努力義務として明記をされたところでございます。個別避難計画といいますと、まさにE委員さんがおっしゃいましたの方を誰がどの避難所までどうやって連れていくかということをお一人お一人に関して計画する、先ほどE委員さんが神戸大学の学生さん達と地域で取り組まれている、それを行政が計画として作っていく、ということになっておるところでございます。県におきましては、この市町での個別避難計画の作成を促進するために、令和3年度に内閣府が行いました事業を活用いたしまして、県版の個別避難計画策定の手引きを作成いたしまして、市町に提供したところでございます。また、当県民局におきましては、平成27年以降毎年、南部圏域災害時・要配慮者対策会議を開催いたしまして、各市町の取組み状況の情報交換、また、個別避難計画作成の先進的な取組み事例の報告・共有なども行っているところでございます。今後とも各市町での計画作成を支援・促進するために、引き続きこうした会議を開催するとともに、一般避難所や福祉避難所の運営に関わります市町や各施設の関係者に対しましても必要な情報提供、また、研修・訓練等を実施いたしまして、支援体制の充実を図って参りたいと考えておるところでございます。

もう一点、F委員さんの方から、県南の生態系の保全ということで、OECMという先進的なお話もいただきました。これについては、H委員さんからも関連したお話があったかと思います。昨年のG7におきまして、2030年までに地球上の陸域・海域、それぞれ30%以上を健全な生態系として、効果的に保全しようということで、30by30がG7各国の共通目標として謳われたところでございます。我が国におきましてもこの達成に向けまして取り組む有効な手段として、このOECMというのを進めているところでございます。OECMといいますのは、直訳いたしますと、その他の効果的な地域をベースとする保全対策といったようなことでございまして、いわゆる従来の国立公園、国定公園などの公的な保護区ではない地域のうち、例えば、里地里山・企業林・社寺林のように、従来から地域や企業、団体様によって、生物多様性の保全が図られている土地、こういった土地を広げていくということを今国の方で進めておるところでございます。環境省におきましては、来年度からこのOECMの認定手続きを開始するというので、今年度はその試行・実証の事業が実施されておるところでございます。この事業につきましては、県や市町村を経由せず、環境省が直営で実施して

おり、環境省に確認しましたところ、来年以降の認定の手続きも当面は国が直接実施すると聞いておりますが、南部圏域の豊かな自然環境、生態系、これを保全する上では非常に有効な取組みであると考えております。今後、今年度の試行・実証を経まして、認定の基準・手続き等、具体的な事項が示されると聞いており、県民局といたしましても、万代庁舎の所管部局とも連携をとりながら、引き続き情報収集を進めて参りたいと考えております。以上でございます。

〔農林水産部〕

農林水産部でございます。まず、I委員さんの方から、きゅうりタウン構想についての御紹介がございました。一点追加させていただきますと、新たに今度JAかいふさんを実証フィールドといたしまして、収穫ロボットというのを県とロボットアームを持っている国内自動機械メーカー、それとA I 開発会社で取り組むところでございます。このモデルを徳島モデルとして、全国に普及できるようにしっかりと取り組んで参りたいと考えております。

それと、もう一点 B委員さんの方からアオリイカ産卵礁設置後の調査をしっかりと行って欲しいというお話がありました。水産研究課や美波町と連携しながら、しっかりと対応して参りたいと考えております。

〔農林水産部〕

H委員さんの方から、環境に配慮した道づくりと豊かな森林づくりの実践につきまして、大変貴重な御意見をいただきました。作業道は、設置場所等も考慮せず開設すれば、作業道のみならず周囲の山林をも崩壊へと誘導する要因となるものと認識をしております。また、近年、温暖化が原因とされます豪雨等による災害が激甚化・頻発化しており、こうした災害を未然に防ぐためにも、間伐や植栽などの森林の整備は元より、災害に強い道づくりの実践が求められているところでございます。このため、作業道の開設にあたりましては、降雨等による地表の浸食や崩壊が起こることのないよう、地形等の状況を現地でしっかりと確認し、崩壊箇所の回避や路面の水が一カ所に集中しないよう、分散排水に心がけるなど、林地の環境を守る作業道の開設に取り組むよう、林業事業者等に対してこれまでも指導しているところでございます。今後とも各林業事業者等を対象にしまして、地域で長年経験を積み、高度な技術を有する林業マイスター等を活用した現場研修を行うなど、災害に強く、生物多様性に富んだ、豊かな森林をつくる人材の育成にしっかりと取り組んで参りたいと考えております。以上でございます。

〔県土整備部〕

県土整備部でございます。よろしく願いいたします。C委員の方から、阿南市中心部の市街の見直しについて、御意見頂きました。富岡小学校や領家日開野線周辺の市街化区域の拡大、甲種農地の除外の御意見がありました。まちづくりにつきましては、中心的主体であります阿南市さんの方で政策を進められておりますが、今のところは、既存の市街地に居住していただくよう誘導するということで、立地適正化計画だったり、阿南駅周辺まちづくりビジョンが策定されております。そのため、今すぐには市街化区域の単純な拡大というのは、なかなか難しいと思うんですけれども、市街化調整区域における土地活用の制度としましては、地区計画制度、開発許可制度もございます。区域区分の見直しによらず、地域住民との合意形成を図りながら市の権限で対応可能となっております。また、甲種農地の除外なんですけれども、これにつきましては、将来の農地として活用・保全を図っていくというような地域もございまして、農林に関する十分な調整が必要でございます。都市開発の考え方

だけで判断するわけでもございませんで、なかなかその点、考慮が必要になると思います。とはいえ、昭和時代に決めた制度がほとんどその形のまま残っておりますので、それについては大きな課題であると考えます。阿南市さんと十分協議しながら、色々な可能性を研究していけたらと考えておりますので、このあたり御理解いただけたらと思います。

また、K委員の方から道の駅の話いただきました。これから、高規格道路ができるところなんですけれども、NEXCOにつきましては、サービスエリアがございますけれども、今できております無料の高速道路につきましては、その代替えが道の駅ということになっていることが多いと思いますので、このあたり、市町の整備課題が大きいものですから、そのあたり、協議しながら考えていきたいと考えております。

また、N委員の方から、193号のセンターラインの復旧、樹木の伐採に関する御意見がございましたけれども、当然樹木の方もパトロール等行いまして、順番を決めてやっているところでございます。現在も各中央線の引き直し、舗装の修繕等、事業の発注をしておりますので、その中で対応できたらと思います。また、そういう箇所がございましたら、是非教えていただけたらと思います。

それと、P委員の方から、天神前の傾斜地工事のことで、工事が中断しているとの話でございましたけれども、それが中断してるわけではございませんで、今、工事の発注に向けて、これから完成に向けて、工事を行っているところでございます。現在、津波避難路が3カ所完成しておりまして、1箇所ではスロープも設置しておりますので、このあたりを活用していただけたらと思います。御意見いただきました道というのは、工事用の仮設でございまして、工事が完了しましたら、撤去ということになっていきますので、このあたりも理解いただければと思います。以上です。

[局長]

続きまして、管内の各首長様から御発言をお願いしたいと思います。では、表原阿南市長様から順にお願いします。

[表原 阿南市長]

ありがとうございます。時間も残されてませんので、簡潔にお伝えをしたいというふうに思います。私の方からは、皆様方からの意見にもありました、地域公共交通のことについて、お伝えをしたいというふうに思います。先だつての徳島新聞の一面で、JR四国の賃上げについて、大きく報道がなされて、阿南徳島間で70円、牟岐徳島間で170円の値上げ、これは通学をする高校生などにとっては非常にインパクトであると思いますし、昨今ずっと続く人口減少と高齢化、利用者の減少、それに加えて、コロナ化、軽油高、人件費の高騰、そういった四重苦が重なって、こういう経営判断に至るということに関しては、経営上仕方ないことだというふうに理解をしています。じゃあこの問題をこのまま放置しておいていいのかということに関しては、そうは決して思っていないくて、阿南市としてもJRであったり、それから、四国運輸局、バス、タクシー、それから、利用者の方、諸々、そういったステークホルダーの方を一堂に会して、会議を立ち上げて、地域公共交通の維持について協議進めて参りました。そして、その地域公共交通の計画についても見直しを行って、取組みを進めているのですが、やはり単一の自治体だけで取組みを進めるのではなくて、沿線の阿南から以南の自治体においても、やはり協議をして、一体的に広域連携で取組みを進めていく必要があるかなと思っています。一市四町は、定住自立圏構想を結んでおりまして、阿南市がその中心となります。ですので、リーダーシップを発揮させていただきまして、今後まず庁内で協議を進めさせていただいて、時期がくれば、なるべく近いうちにですね、残りの阿南以南の三町、美波町、海陽、牟岐の町長さんを通じ

て、なにがしかの形で会議を設けさせていただく。そこに、先ほど言った交通事業者であったり、四国運輸局であったり、そして、徳島県においても、なにがしかの形で、御協力をいただきたいと思っておりますので、一致団結をして、この喫緊の課題に対して、対応して参りたい。2025年問題も含む人口減少、高齢者化の波に立ち向かっていきたいと思っておりますので、どうぞ御協力のほど、よろしくお願いします。私からは以上です。

〔坂口 那賀町長〕

各委員の皆様については、県南の市町の活性化に色々と御尽力賜っていますことに御礼申し上げます。私の方からは、色々と那賀町の関係の委員さんからの御意見について、触れさせていただきたいと思えます。まず、G委員さんの小児科・産婦人科等の関係でございますが、現在のところ、前にもお話をさせていただいたと思うんですが、なかなか医師・看護師不足という中で、この点については、色々と課題がございます。町としては、総合医の先生がほしいなというところがございます。そういった中でございますので、それぞれの特定科については、大きい病院からの支援の先生方に来ていただくという形で対応していただいておりますので、御理解賜りたいと思えます。

それから、移住問題につきましては、那賀町としても、移住対策に空き家の活用とか、支援策を色々と打ち出しているんですが、色々と考えてみて、一方的かなという感じがしております。やはり、移住者の方の御希望、御要望を今年の予算でアンケート調査を行う予定でございます、若い方については、来ていただいて、休日は何ができるのか、買い物はできるのかということについては御心配があらうかと思えます。定年退職されて、田舎で静かに暮らしたいという方についても、今までの地域の慣習、環境等に色々と課題がでてきております。そういったことも含めて、今後、来ていただく方の御要望というのが、どんなものがあるかということ今年調査をする予定でございます。

それから、H委員さんの御指摘も十分承知はしているんですが、林道、作業道につきましては、県の方からもお話がございましたとおり、補助事業で行う林道・作業道は、ある程度の規格がございます。ただ、搬出するだけに重機を置いているところが数カ所見られます。そういったところについては、タワーヤード等での対応をお願いしたいということ林業振興課での取組みで検討いたしております。

それから、やはり、健全な森づくりというのは、非常に重要でございます。杉の40年生前後の適正に管理がされた森林ということについては、国も脱炭素社会ということで推進をしております。そういったヘクタールあたり、二酸化炭素を吸収するのが、だいたい8.8t、約9tと聞いております。そういったことから、那賀町6万6千ヘクタール、これが全部はなかなかできてないんで、7割としても、40万トンの二酸化炭素を吸収されていると想定しております。そういったことで、できるだけ健全な森作り、これをするによって、50万トン、60万トンの二酸化炭素が吸収されるという森づくりを進めていこうというふうになっておりますので、御理解を賜りたいと思えます。

それから、N委員さんの道路の白線、これ非常に重要で、最近の車につきましては白線をオーバーすると、警告音が鳴ります。これが白線が消えてしまうと、それが作動しないということもあらうと思えますし、特に田舎の山の方の国道の夜間、雨の日の夜間、街灯がございませんので、白線が頼りです。そういったことも含めて、できるだけ予算の範囲で早急をお願いを申し上げたいと思えます。以上でございます。

〔枅富 牟岐町長〕

はい、牟岐町長の枅富でございます。よろしくお願いいたします。牟岐町からは二点ほど、お礼

とまた今後の御支援のお願いを申し上げたいと存じます。

1点目は、牟岐ふるさと会についてでございます。牟岐町出身者、牟岐町で関係性を構築し、繋がりができた方々や牟岐町に興味を持っていた方々と牟岐ふるさと会を設置し、交流と親睦を図り、地域の課題解決や活性化に取り組んでいるところでございます。令和4年度は、徳島県の店で定期的に行われている物産イベントで牟岐町の日開催時に、同時に上階の徳島県関西本部の会議室をお借りして、会員の皆様と交流することができましたこと、心から感謝を申し上げる次第でございます。今後とも徳島県関西本部と連携をとらせていただきたく、なにとぞ御支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

次に、県立海部病院との連携推進についてでございます。在宅医療介護連携推進事業におきましては、県立病院の医師や看護師等によります医療・介護関係者の研修や住民への講演会の講師等をしていただき、心から感謝を申し上げます。本当に有り難いことでございます。地域医療の充実を図るためには、医師の人材確保が不可欠でありますので、地域医療を守る会を支援しながら、医師の流失を防ぐ施策を継続し、県立海部病院と連携を推進していきたいと考えております。今後とも引き続き地域包括ケアシステムの構築に向け、お力添えをいただけますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。以上でございます。

〔影治 美波町長〕

美波町長の影治でございます。現在、コロナ第七波で、ピークアウトがいつになるか分からないというようなこともありまして、私も、政策の推進であったりってところが非常に日頃気になっております。そんな中で、特に県南のにぎわいづくりについて、二点程お話しさせていただきます。

一つは、にぎわいづくりの一つとして、イベントがあります。それぞれの市町でイベントがありますが、そのイベントがコロナの状況等によりまして、中止になったり、あるいは、開催されたり、ということがあります。それぞれリスクを管理しながらやられているってところがありますけれども、できることならば、何かコロナ化でもやれるようなガイドラインみたいなものが徳島県下の中で、県さんだけにこう押しつけるのではなくて、色々な方々と協議をしながら、そういったガイドラインができると、我々市町の預かる者としては、すごく助かるなと思います。まあ判断材料というようなことがあります。今年も私の町の中でも、うみがめ祭りであったり、トライアスロンであったり、っていう時期がいつも海の日前後ということで、7月20日前後でありましたけれども、ちょうどその数日前、徳島アラートが2の前期ということになりまして、開催する基準をアラート1っていうように決めてたところがあったということと、私の町は、もうほぼ高齢者比率が50%に近いってことがありまして、町のそれぞれの雰囲気、若い方々は、うみがめ祭りを実行委員会はやりたいってことで準備を進めてきていたんですけれども、断念していただいたことがありますので、そういったガイドライン的なものができたらいいなというのが一点。

それともう一つは、このコロナ禍っていうのは、今3年目ですけれども、いつ収束するのかっていうのが、なかなか分からないような状況になっています。そんな中で、特に県南は、いわゆる高速ネットワークのインフラっていうのが、空白地帯だということになっております。工事自体っていうのは、コロナにあまり関係せずに、推進ができていくところがあるかなと思っておりますので、防災減災の国土強靱化5カ年推進化加速化の対策の中で、できるだけ早くそれを進めていただくことが、コロナが終わったときに、色々なお客様に来ていただくであったり、先ほどからでている移住であったり、観光の面とか、いろんな面で、いわゆる高速ネットワークっていうようなインフラができていると、すごく立ち上がりがいいんじゃないかっていうふうにも思っております。ですので、常々県

さんを中心に、国土交通省の方々とかで進めていただいているところがありますので、それについても、引き続き推進をしていただきたいと思います。以上です。

〔三浦 海陽町長〕

はい、トリを務めさせていただきます海陽町長の三浦です。どうぞよろしくお願いをいたします。
I 委員さんからもありましたけれども、きゅうりタウンの取組み、海陽町でも移住者がすごく増えておりまして、私の娘が通っていた小学校にも子供が転校してきたりと、目に見えて人口の増加に効果がでております。本当にまた引き続き、どうぞ御支援・御協力よろしくお願いをいたします。そして、M 委員さん聞こえますか。10月のウォーキング、ぜひ参加もしてみようかと思っておりますので、また、御指導よろしくお願いをいたします。それで、M 委員さんからお話のあったリモートを使った介護予防が今度主流になってくるというようなことで、色々な技術を使える年代、自分達もある程度使えると思うんですけれど、その年代がこれからどんどん上にいくということで、その準備というのも行政の方でもしていけたらと思っておりますので、またそのあたり、こういうふうな機材があったらいいんじゃないとか、そういうのも含めてですね、またアドバイスいただいたら、町の方でも、できることに取り組んでいきたいと思っておりますので、そのあたりもよろしくお願いをいたします。

田舎では今後やっぱり労働力が必要というようなことで、生涯現役というのは、私も賛成でありまして、色々と町の職員の採用試験も59才まで引き上げたりとか、賛否両論はあったんですけれども、自分としてはやっぱり高齢者っていつても今はすごく若いというようなことなので、どんどん働いていただいて、そしてそれも生きがいに変えていただけたらと思っておりますので、そのような環境づくりもできればやっていきたいと思っておりますので、また御指導もいただきたいと思っております。

学童保育とかで、色々とお話もあったんですけれども、学童保育も今やっていたいでいる方ともお話もしていたんですけれども、働いていただく指導員の方がすごく少ないというようなことで、コロナ前にもですね、地元の海部高校の方に私も直接行かしていただいて、なんとか夏休みに高校生指導員として来ていただけないかというようなお願いもいたしまして、そして、来ていただいていたというのが現状でございます。先ほどもありましたように、リタイアをされた世代がですね、もうちょっと働いていただけるような、そのようなことも考えていけたら、うまく働きながら子育てができる環境というものをつくっていきけるのではないかと考えております。それで、明石市の子育ての話ですが、ちょっと引き合いにだされてたんですけれども、明石市と海陽町では、子育ての環境、子育てに対する予算を使うっていうのが、狙いが少し違いまして、明石市は周辺の自治体よりも有利な子育て施策をすることによって、周辺からどんどん人口が流入してくるということだと思っておりますけれども、海陽町の場合はですね、やっぱり距離が遠いということで、移住をしてから、その場所で、教育環境がどれだけ整っているかっていうようなところがキーとなると思っております。そこで、海陽町は、今、都会に負けない教育と銘打って、町内の公教育環境をいかに良くするかということで、そちらの方に予算を結構使っております、ICT教育も徳島県下で今トップでありますし、グローバル教育もやっておりますので、またそのあたりも、都会並みか、都会以上の教育が受けられるように頑張って予算を使ってやっていけたらと思っておりますので、御理解いただければと思います。

先ほどもG 委員さんの方からもありましたけれども、産婦人科とか小児科など、へき地医療の充実とか、そのあたりも含めまして、まず、子育てしやすい環境を作るところからやらなければならないと、予算の配分としまして、明石市のように、無料行政というのはなかなか難しいですけれども、なんとか海陽町が生き残っていく上で、まずやらなければならないことというのを、しっかりと少子化の検討委員会もありますので、そこでも意見を聞きながら、やっていけたらと思っております。で、

また、今後もですね、いろいろアンテナを広げておりますので、委員の皆様方にアドバイスをいただければと、ありがたいと思いますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

〔局長〕

ありがとうございました。最後に、酒池副知事からお願いいたします。

〔酒池副知事〕

本日は長時間にわたり貴重な御意見・御提言を賜りありがとうございました。御意見については、知事に報告させていただくとともに、後日文書で回答させていただきます。

本日頂いた主な御意見等をまとめさせていただきますと、まずは災害対応関係につきましては、高齢化が進む中での地震発生時の避難のあり方、災害に強い豊かな森づくり、避難所の快適化や防災人材の育成、さらには、海部病院の医師等住居の高台移転、旧海部病院の活用等の御意見を頂きました。県といたしましても、国難の1つであります災害列島への対応につきましては、重点施策として引き続き積極的に取り組んで参りたいと考えております。

先程、阿南市長さんの方からお話がありましたが、地域公共交通に対する取組み、高齢者の移動手段の確保についても御意見を頂きました。地域の皆様方にとって重要な移動手段の確保につきましては、十分検討し、取組みを進めて参りたいと考えております。

また、人口減少、少子化への対応といたしましては、空き家対策、それから関西へのPRのお話がありました。移住コーディネーターの活用や子育てしやすい環境づくり、小児科・産婦人科の誘致についてもお話ししていただきました。あと、医療福祉関係については高齢者のフレイル予防や社会参加の促進についてそれぞれ御意見を頂きました。また、花火を題材にしましたコロナ禍の中でのコト体験、夢ホールのアウトリーチの活用、さらには地球規模の課題に対するOECDによる生態系保全の取組み、阿南市中心部の都市計画の見直し、高速道路の推進による地域活性化、国道193号線のセンターラインの復旧、きゅうりタウンの推進等、地域の目線から多岐にわたって御意見をいただいたところでございます。

本日頂きました貴重な御意見につきましては、皆様方の地域に根ざした御意見・御提言ということで今後の各施策に反映させていただくとともに、南部圏域の振興はもとより、徳島県全体の活性化につながるよう取り組んで参ります。今後とも皆様方の御指導・御協力よろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございました。

〔局長〕

それでは、以上をもちまして、「令和4年度第1回徳島県南部地域政策総合会議」を閉会いたします。本日はどうもありがとうございました。